

記事を読んで、問いに答えなさい。

2020年11月12日朝刊

東京芸術大卒で俳優から検事となった

三原 桃さん

時の人

東京芸術大を卒業後、長唄三味線の奏者や俳優として活動していたが、「びつくりするほど売れなかった」と笑う。不遇の日々で目にしたのは、出演料の踏み倒しなど理不尽な仕打ちを受ける仲間の姿。「立場の弱い人の権利を守る仕事に就きたい」と法曹の道を志し、異色の経歴を持つ検事が誕生した。



幼い頃から歌舞伎や時代劇が好きで、将来の夢は俳優。「芸に秀でなければ」と思い始めた高校1年の時、母親の勧めで手にした三味線のとりこになった。芸の道にまい進しようと、数々の有名芸術家を輩出した東京芸大に進学。卒業後は舞台に立つたり、映画に出演したりしたが、なかなか芽が出なかった。

「このままでは嫌だ」と思い続けた20代。周りを見渡すと、出演料の未払いや所属事務所との不当な契約に声を上げられず、従うしかない俳優たちがいた。一念発起して勉強を始め、30歳で法科大学院に合格。司法試験もパスした。

①三原さんが法曹の道を志した理由を読み取って書きなさい。

②三原さんは「異色の経歴」を持つ検事と書かれている。「異色の経歴」を説明しなさい。

③検事の仕事を三原さんはどのように見ているのか書きなさい。

④検事としての三原さんの目標を書きなさい。

年 組 名前

記事を読んで、問いに答えなさい。

解答例

2020年11月12日朝刊

東京芸術大卒で俳優から検事となった

三原 桃さん

時の人

東京芸術大を卒業後、長唄三味線の奏者や俳優として活動していたが、びつくりするほど売れなかった」と笑う。不遇の日々で目にしたのは、出演料の踏み倒しなど理不尽な仕打ちを受ける仲間の姿。「立場の弱い人の権利を守る仕事に就きたい」と法曹の道を志し、異色の経歴を持つ検事が誕生した。



当初は弁護士志望だったが、司法修習で真実を探求する検事の姿に「人の心の深淵（しんえん）に触れられる仕事だ」と感じ、進路を変えた。今年2月、横浜地検に赴任。「芸大卒は聞いたことがない」と地検幹部も驚く。仕事にはまだ慣れないが、取り調べで相手に本気で向き合い、本音を聞き出せた時などに大きなやりがいを感じる。「被疑者を一人の人間として見続けられる検事になりたい」と笑顔を見せる。北九州市出身で、俳優時代に知り合った夫と2人暮らしの37歳。

「このままでは嫌だ」と思い続けた20代。周りを見渡すと、出演料の未払いや所属事務所との不当な契約に声を上げられず、従うしかない俳優たちがいた。一念発起して勉強を始め、30歳で法科大学院に合格。司法試験もパスした。

①三原さんが法曹の道を志した理由を読み取って書きなさい。

立場の弱い人の権利を守る仕事に就きたいと考えたから。

②三原さんは「異色の経歴」を持つ検事と書かれている。「異色の経歴」を説明しなさい。

(例)東京芸術大を卒業後、長唄三味線の奏者や俳優として活動した後に検事となった。

③検事の仕事を三原さんはどのように見ているのか書きなさい。

司法修習で真実を探求する検事の姿に「人の心の深淵に触れられる仕事だ」と感じている。

④検事としての三原さんの目標を書きなさい。

被疑者を一人の人間として見続けられる検事であること。

年 組 名前